

九州森林管理局の取組に関する調査



目次

Summary	P3～
調査概要	P6～
回答者プロフィール	P9～
詳細編	P11～

Summary

【林野庁の認知】

- 林野庁の認知率は37.2%である。
- 性別で見ると男性49.2%、女性25.2%と男性の認知率の方が高くなっており、「北九州・沖縄」と「南九州」の地域別で見ても男女の認知率の傾向は同様である。

【九州森林管理局の認知】

- 九州森林管理局の認知率は23.0%である。
- 性別で見ると男性26.8%、女性19.2%と男性の認知率の方が高くなっており、地域別で見ても男女の認知率の傾向は同様である。

【国有林の認知】

- 国有林の認知率は54.2%である。
- 性別で見ると男性63.6%、女性44.8%と男性の認知率の方が高くなっており、地域別で見ても男女の認知率の傾向は同様である。
- 北九州・沖縄の女性の認知率が39.2%と他の割付セグメントに比べて認知率が低くなっている。

【森林の機能の認知】

- 回答者の65.8%が、森林の機能いずれかを知っている。具体的な森林の機能では、「3.山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能」(53.6%)が最も高く、次いで「4.水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能」(45.8%)、「5.二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能」(45.6%)、「2.貴重な野生動植物の生息・生育の場である生物多様性保全機能」(42.6%)と続く。

【一番期待する森林の機能】

- 一番期待する森林の機能については認知と同様に「3.山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能」(24.6%)が最も高い。次いで「5.二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能」(17.0%)が続く。認知で2番目の「4.水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能」は(10.6%)と、認知のスコアと比較すると期待度はやや低い水準となっている。

【一番期待している森づくり】

- 一番期待している森づくりについて最も高いのは、「自然維持タイプ(森林生態系や希少な生物の生育・生息する森林を保全する国有林)」と「山地災害防止タイプ【土砂流出・崩壊防備エリア】(土砂の流出、崩壊から被害を守る国有林)」(各19.4%)が同率トップとなっている。

【森づくりの取り組みに関する認知】

- 水源かん養タイプの取組が維持・増進を図っていることの認知率は28.6%である。
- 人工林を若返らせることで、CO₂の吸収量が維持・増進されることの認知率は34.8%である。
- 伐採後に製品となった木材の使用によりCO₂を固定できることの認知率は30.2%である。

【「九州森林管理局からの紹介を見て思ったこと」の自由記述回答の内容】

- 今回のアンケートを通して、「知らなかったことを学んだ」「大切な取り組みだと評価」「多岐にわたる活動への理解」と肯定的な回答をしている方が多く見られた。
- 九州森林管理局の活動については非認知者が多数派となっているなか、今回のアンケートを通して活動を初めて知ったボリュームは多くなっている。
- 加えて、活動の重要性を感じているために、「現在よりも活動をアピールするべき」という意見も見られる。

Q10.「九州森林管理局のご紹介」を見てどう思われましたか。

<主要意見の件数表>

	件数
・ 知らなかったことを学んだ	93
・ 大切な取り組みだと評価	77
・ 多岐にわたる活動への理解	45
・ 森林の重要性を認識	41
・ 災害防止の役割に期待	32
・ 活動への期待	30
・ 環境保全への貢献を評価	29
・ 自然保護の重要性を認識	23
・ もっと広報・情報発信が必要	19
・ 地道な活動への感謝	13
・ もっと詳しく知りたい	13
・ CO2固定機能に興味	10
・ 花粉対策への期待	10
・ 木材利用の重要性を認識	9
・ 水資源保全の重要性を認識	8
・ 国有林の面積に驚き	8
・ レクリエーション機能に興味	6
・ 林業の担い手不足を懸念	5
・ 生物多様性保全への期待	3

【自由記述回答の抜粋】

<知らなかったことを学んだ>

- なかなか触れることのない情報でなんとなく聞いたことがある、見たことがある、程度だったのもっと知りたく興味を持った。
- まったく知らないことが多かったのもっと知れば環境保全に対する認識が強くなるのではないかと思います。

<大切な取り組みだと評価>

- 森林にたくさんの役割がある事を知り、大事にしていなければいけない物だと改めて思った。
- 森林の多い日本において、このような取り組みはとても必要であると思うし、もう少し大々的に国民にアピールするべき。
- これからの地球にとって大切な役割だと思う。

<多岐にわたる活動への理解>

- SDGsに関わるさまざまな機能を担う森林を保全、育成する活動を引き続き推進、発展させて欲しい。
- 自身が思っているより様々な取り組みをしてくれていて頭が下がる思いがした。

調査概要

調査目的	現状の資料が理解しやすい内容になっているのか、林野庁・九州森林管理局について知っている方がどのくらいいるのか把握し、今後の活動に生かす。														
調査課題	✓ 現状の資料が理解のしやすい内容になっているか ✓ 林野庁・九州森林管理局の認知														
調査手法	ネットリサーチ														
対象者条件	【性別】 男女 【年齢】 18歳～69歳 【地域】 ①熊本/大分/宮崎/鹿児島 ②福岡/佐賀/長崎/沖縄 【その他条件】(国会議員、地方議員、地方公共団体の長、国家公務員は対象外)														
回収数	本調査:500サンプル														
割付	<table><tr><td rowspan="2">①熊本/大分/宮崎/鹿児島</td><td>男性</td><td>125</td></tr><tr><td>女性</td><td>125</td></tr><tr><td rowspan="2">②福岡/佐賀/長崎/沖縄</td><td>男性</td><td>125</td></tr><tr><td>女性</td><td>125</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>500</td></tr></table>		①熊本/大分/宮崎/鹿児島	男性	125	女性	125	②福岡/佐賀/長崎/沖縄	男性	125	女性	125	計		500
①熊本/大分/宮崎/鹿児島	男性	125													
	女性	125													
②福岡/佐賀/長崎/沖縄	男性	125													
	女性	125													
計		500													
調査期間	2025年1月28日(火) ～ 1月29日(水)														
調査機関	株式会社ネオマーケティング														

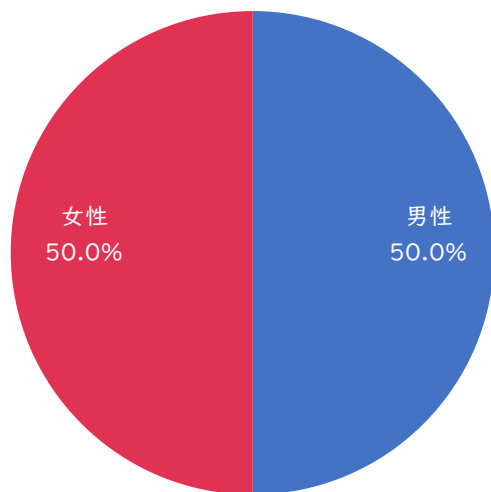
フェース質問		
F1	SA	性別
F2	NA	年齢
F3	SA	居住地域
F4	MA	就業

本調査		
Q1	SA	林野庁の認知度
Q2	SA	九州森林管理局の認知度
Q3	SA	国有林の認知度
Q4	MA	知っている森林の機能
Q5	SA	一番期待する森林の機能
Q6	SA	一番期待している森づくり
Q7	SA	水源かん養タイプの取組が維持・増進を図っていることの認知
Q8	SA	人工林を若返らせることで、CO ₂ の吸収量が維持・増進されることの認知
Q9	SA	伐採後に製品となった木材の使用によりCO ₂ を固定できることの認知
Q10	FA	「九州森林管理局の紹介」に興味を持った部分、知らなかったこと

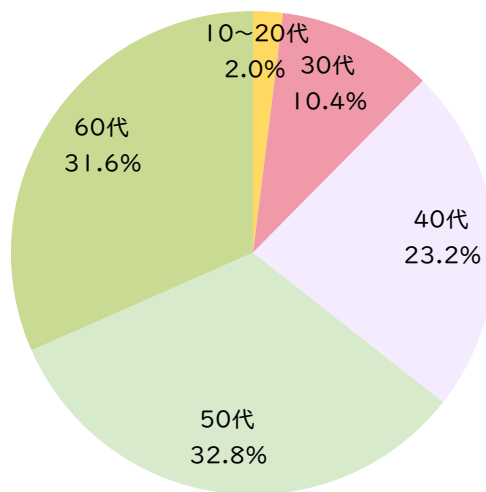
回答者 プロフィール

※本調査データ

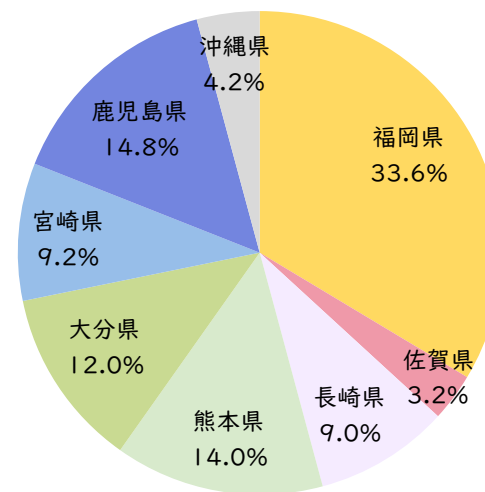
性別(n=500)



年代(n=500)



居住地域(n=500)



詳細編 本調査

※本調査データ

- 林野庁の認知率は37.2%である。
- 男性の認知割合が女性よりも高くなっており、割付の地域別で見ても男性が高い傾向は同様である。

Q1 あなたは、林野庁を知っていましたか。※以下の画像を確認してからお答えください。（SA）

森林にかかわる省庁：林野庁

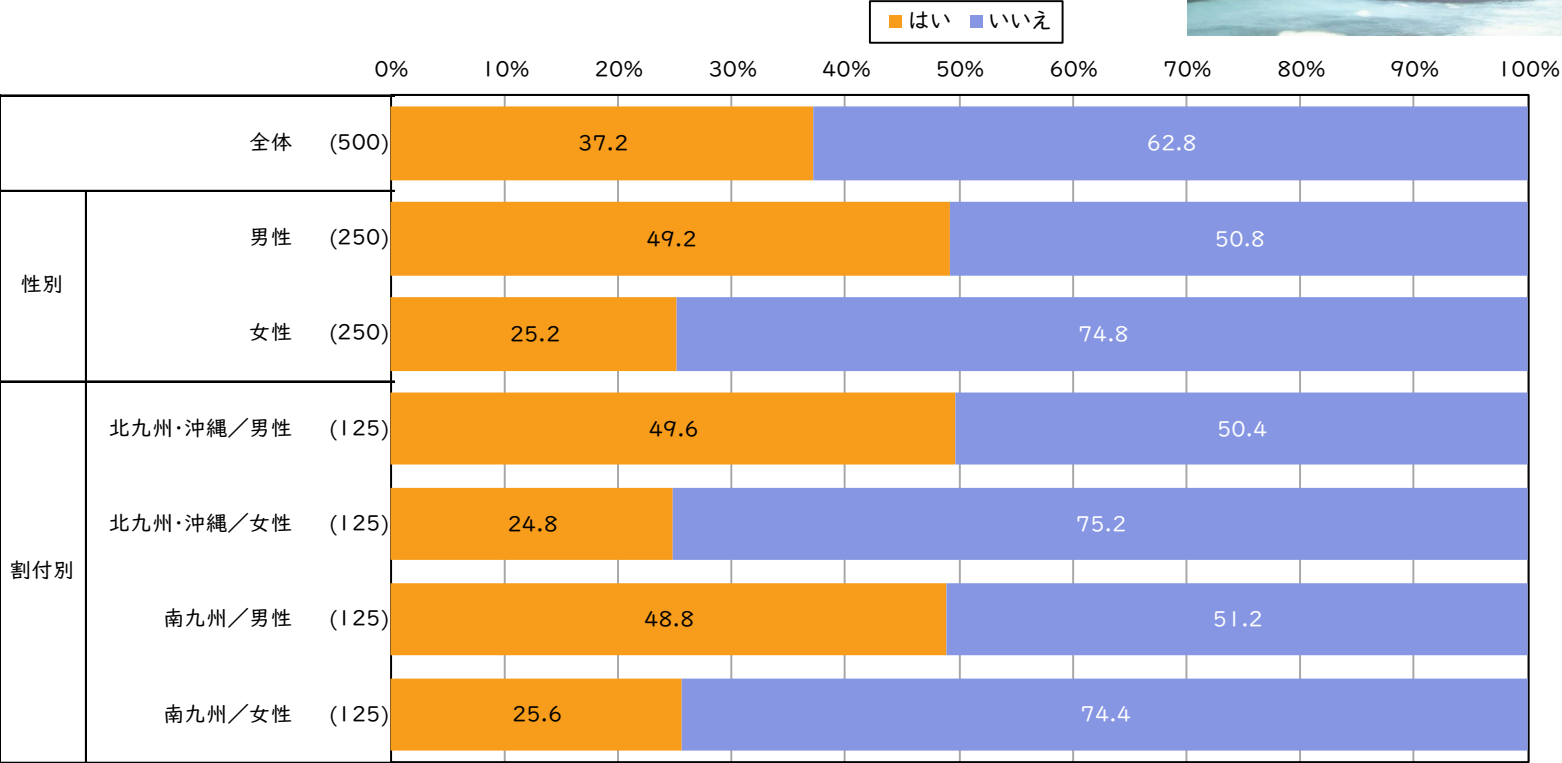
✓国の機関で元気な森林をつくっているのは**林野庁**
✓林野庁は**森林を通じてサービス**を提供。森林整備や林業、木材産業の活性化に貢献

● 林野庁の役割

森林整備の推進
快適な生活環境
美しい景観の維持・創造

+

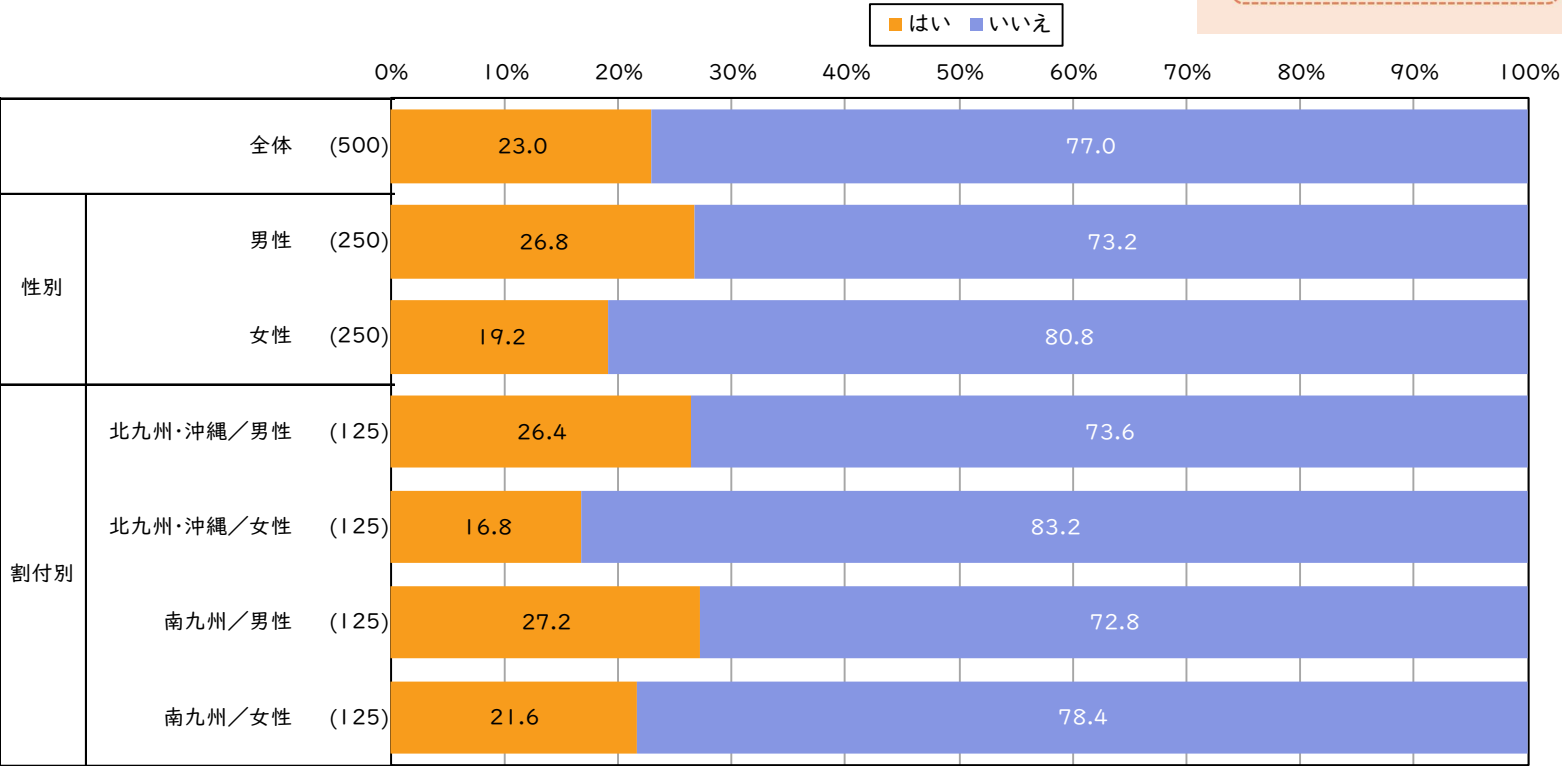
林業や木材産業の活性化
山村の主要な産業である
林業を盛り上げ、地域を元気に



2%未満の数値ラベルは非表示

- 九州森林管理局の認知率は23.0%である。
- 九州管理局の認知も男性の方が女性に比べて高い傾向が見られる。

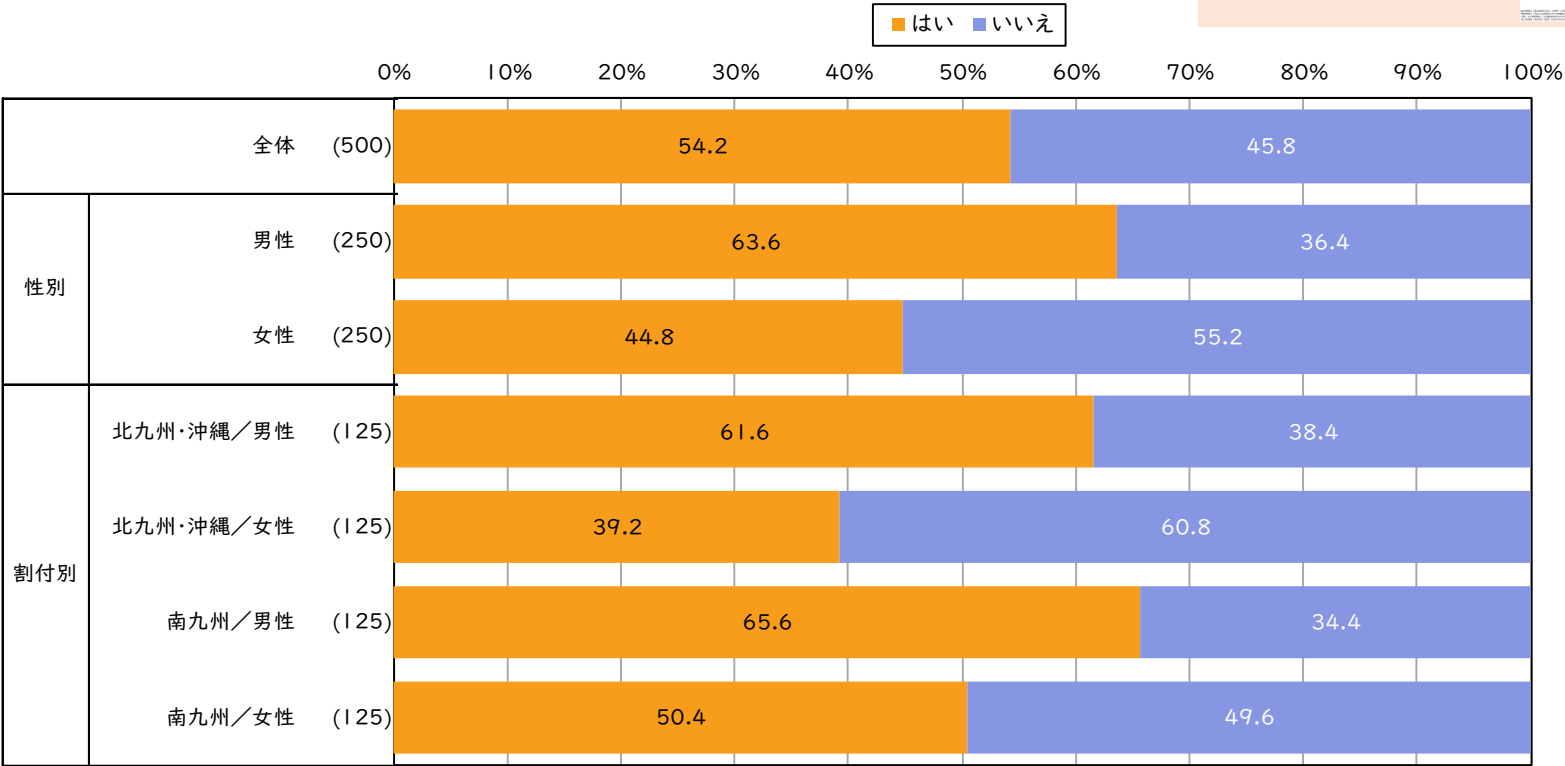
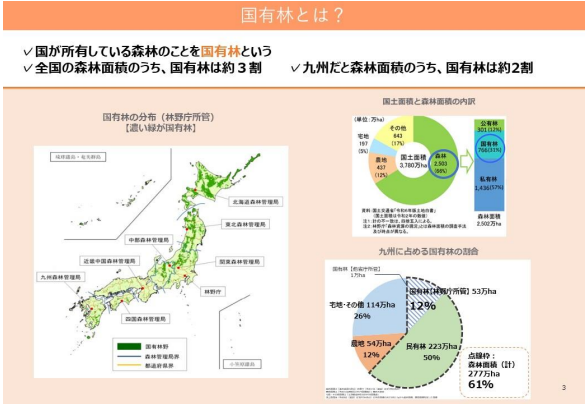
Q2 あなたは、九州森林管理局を知っていましたか。※以下の画像を確認してからお答えください。（SA）



2%未満の数値ラベルは非表示

- 国有林の認知率は54.2%である。
- 割付別でみると、南九州／男性が65.6%と認知率が高くなっている。
- 北九州・沖縄／女性で認知率が39.2%と割付の中で最も低くなっている。

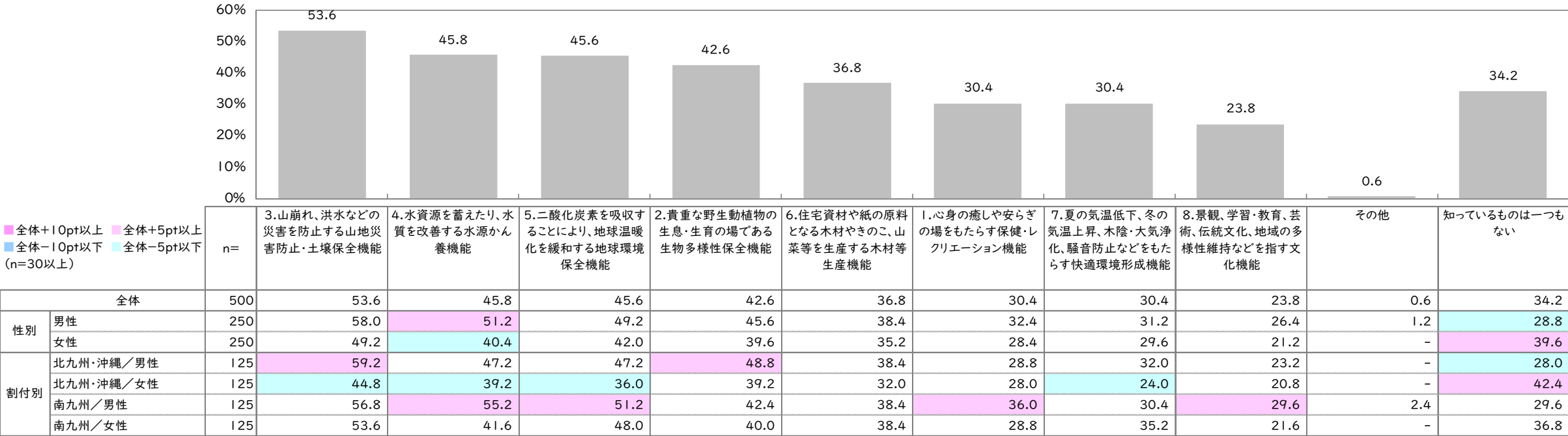
Q3 あなたは、国有林を知っていましたか。※以下の画像を確認してからお答えください。（SA）



2%未満の数値ラベルは非表示

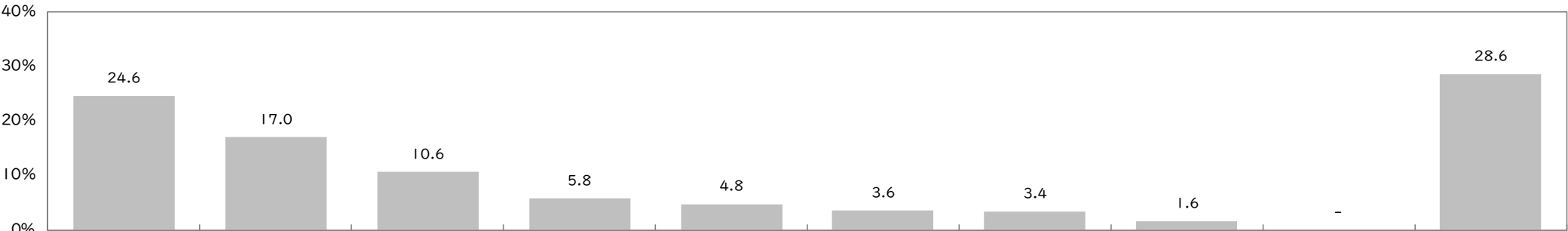
- 知っている森林の機能について最も高いのは、「3.山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能」(53.6%)である。次いで「4.水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能」(45.8%)、「5.二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能」(45.6%)、「2.貴重な野生動植物の生息・生育の場である生物多様性保全機能」(42.6%)と続く。

Q4 あなたがすでに知っている森林の機能についてすべての番号を選択してください。※以下の画像を確認してからお答えください。（MA）



- 一番期待する森林の機能について最も高いのは、「3.山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能」(24.6%)である。次いで「5.二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能」(17.0%)、「4.水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能」(10.6%)、「7.夏の気温低下、冬の気温上昇、木陰・大気浄化、騒音防止などをもたらす快適環境形成機能」(5.8%)と続く。

Q5 あなたは、森林のさまざまな機能の中で何に一番期待しますか。あてはまるものを一つ選択してください。(SA)

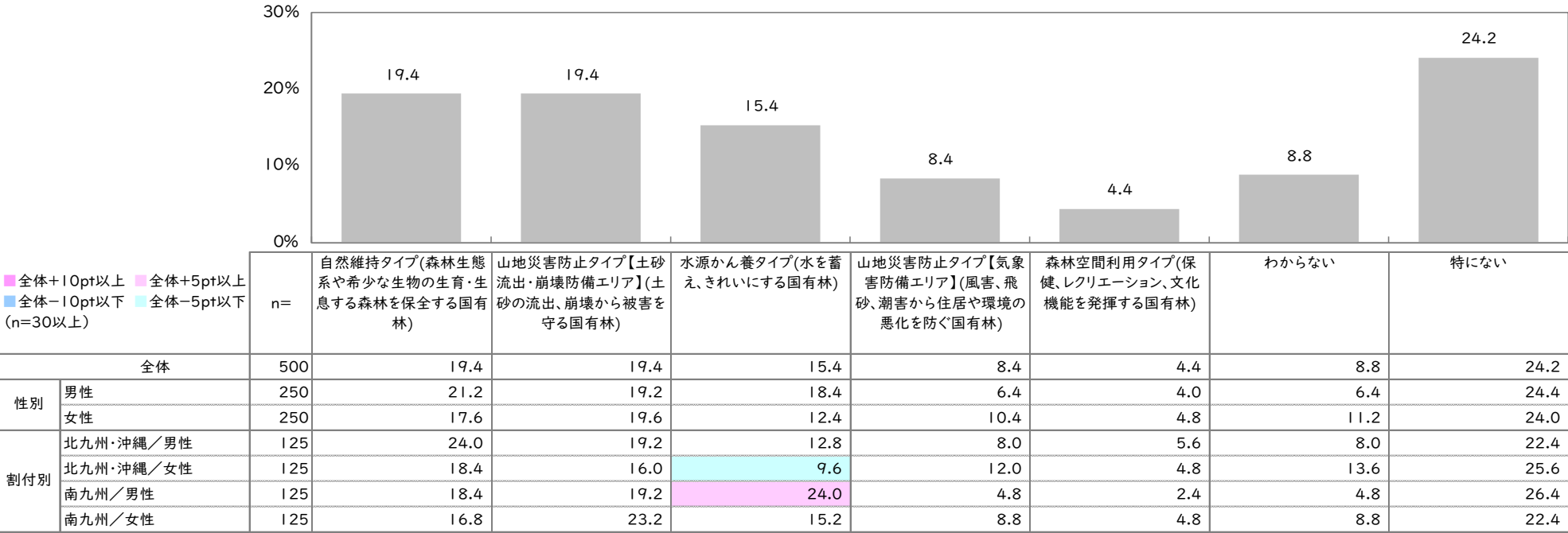


		n=	3.山崩れ、洪水などの災害を防止する山地災害防止・土壌保全機能	5.二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化を緩和する地球環境保全機能	4.水資源を蓄えたり、水質を改善する水源かん養機能	7.夏の気温低下、冬の気温上昇、木陰・大気浄化、騒音防止などをもたらす快適環境形成機能	2.貴重な野生動植物の生息・生育の場である生物多様性保全機能	6.住宅資材や紙の原料となる木材やきのこ、山菜等を生産する木材等生産機能	1.心身の癒しや安らぎの場をもたらす保健・レクリエーション機能	8.景観、学習・教育、芸術、伝統文化、地域の多様性維持などを指す文化機能	その他	特にない
全体		500	24.6	17.0	10.6	5.8	4.8	3.6	3.4	1.6	-	28.6
性別	男性	250	23.6	16.8	12.0	3.6	5.6	3.6	3.2	2.8	-	28.8
	女性	250	25.6	17.2	9.2	8.0	4.0	3.6	3.6	0.4	-	28.4
割付別	北九州・沖縄／男性	125	26.4	15.2	10.4	3.2	7.2	3.2	4.8	1.6	-	28.0
	北九州・沖縄／女性	125	25.6	14.4	8.0	5.6	4.8	4.8	5.6	0.8	-	30.4
	南九州／男性	125	20.8	18.4	13.6	4.0	4.0	4.0	1.6	4.0	-	29.6
	南九州／女性	125	25.6	20.0	10.4	10.4	3.2	2.4	1.6	-	-	26.4

- 一番期待している森づくりについて最も高いのは、「自然維持タイプ(森林生態系や希少な生物の生育・生息する森林を保全する国有林)」「山地災害防止タイプ【土砂流出・崩壊防備エリア】(土砂の流出、崩壊から被害を守る国有林)」(各19.4%)である。次いで「水源かん養タイプ(水を蓄え、きれいにする国有林)」(15.4%)、「山地災害防止タイプ【気象害防備エリア】(風害、飛砂、潮害から住居や環境の悪化を防ぐ国有林)」(8.4%)と続く。



Q6 九州森林管理局における重視すべき森づくりの考え方について、以下の画像にまとめております。あなたは、以下の画像の九州森林管理局における森林タイプ別のうち、どの森づくりに一番期待していますか。あてはまるものを一つ選択してください。※以下の画像を確認してからお答えください。(SA)

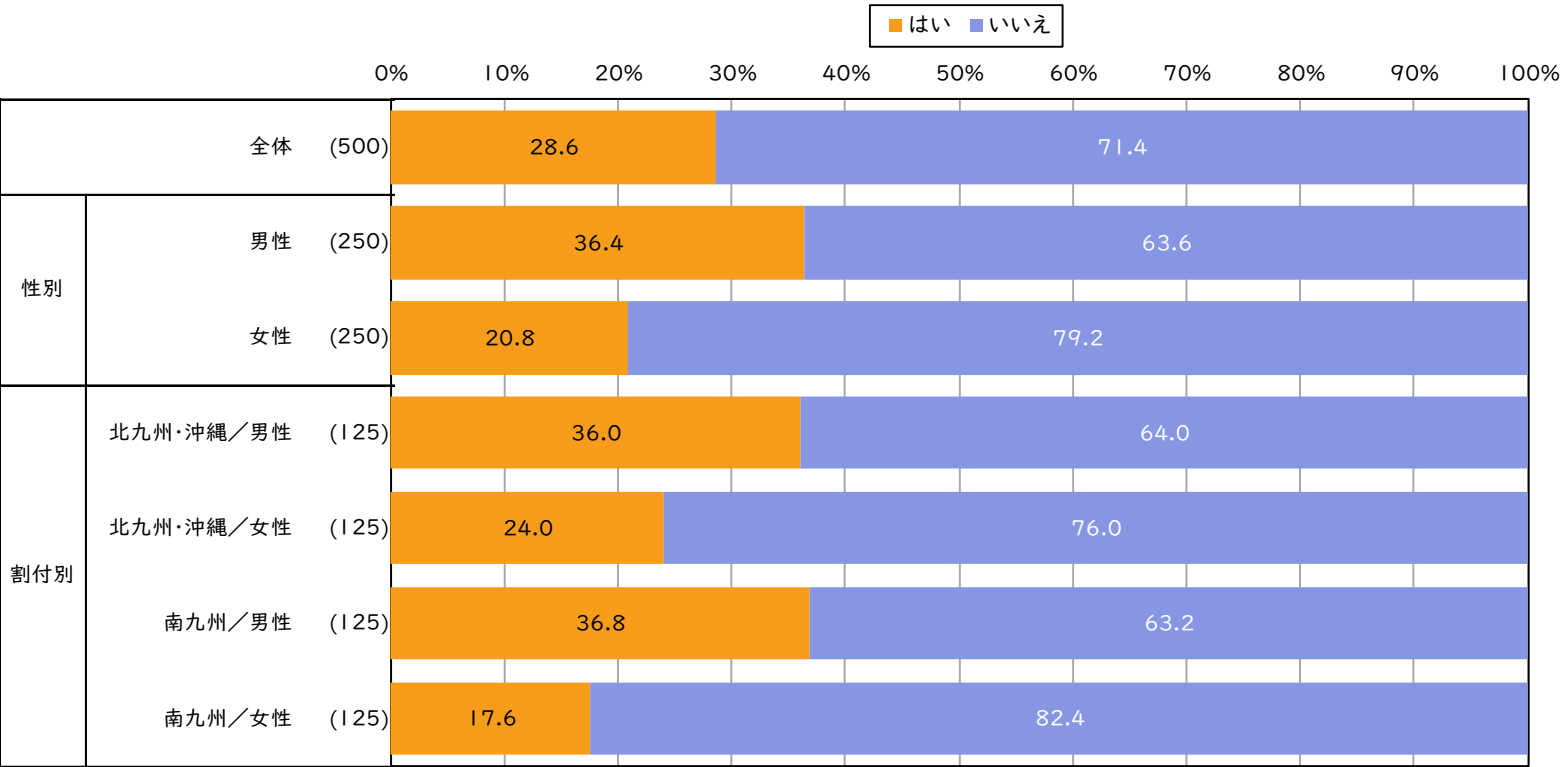


水源かん養タイプの取組が維持・増進を図っていることの認知

- 水源かん養タイプの取組が維持・増進を図っていることの認知率は28.6%である。



Q7 あなたは、水源かん養タイプの取組が、伐採や植栽を行い、水源かん養機能の維持・増進を図っていることを知っていましたか。※以下の画像を確認してからお答えください。（SA）

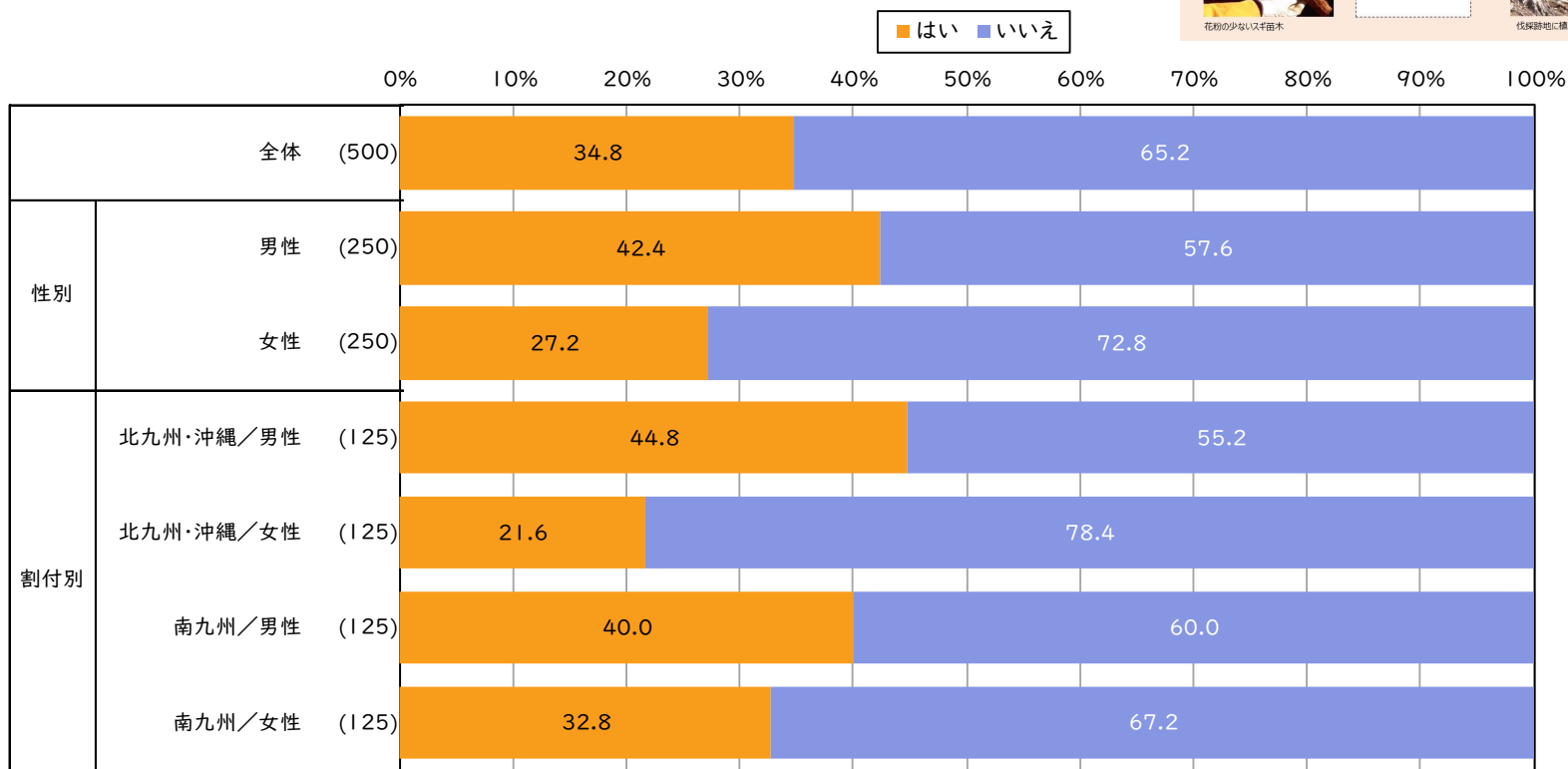


2%未満の数値ラベルは非表示

人工林を若返らせることで、CO₂の吸収量が維持・増進されることの認知

- 人工林を若返らせることで、CO₂の吸収量が維持・増進されることの認知率は34.8%である。

Q8 あなたは、人工林を若返らせる(伐採し、植える)ことで、CO₂の吸収量(地球温暖化対策)が維持・増進されることを知っていましたか。(SA)



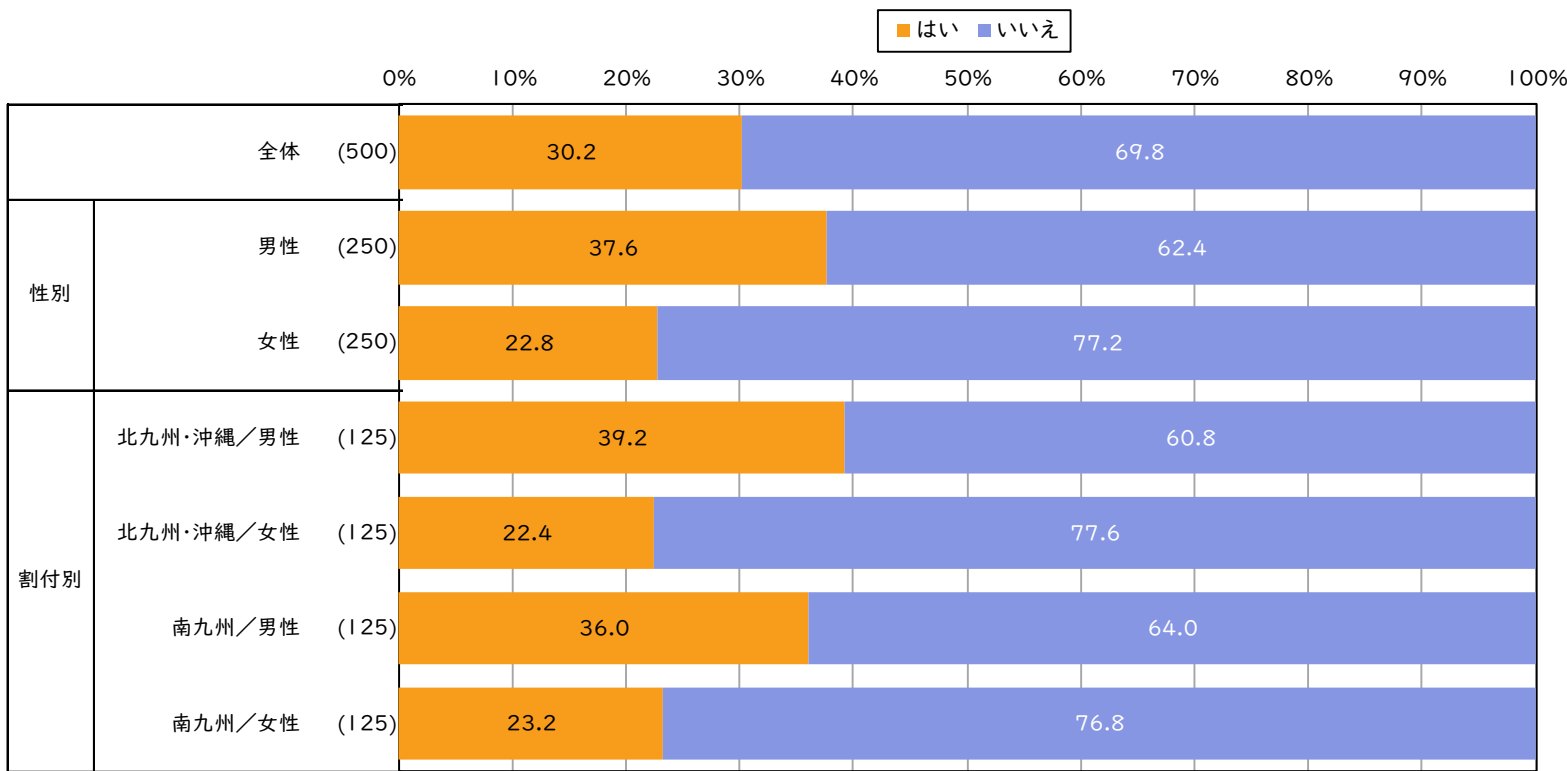
2%未満の数値ラベルは非表示

伐採後に製品となった木材の使用によりCO₂を固定できることの認知

- 伐採後に製品となった木材の使用によりCO₂を固定できることの認知率は30.2%である。



Q9 あなたは、伐採後に製品となった木材を家や家具等に使用することにより、CO₂を固定できること(地球温暖化対策に寄与できること)を知っていましたか。(SA)



2%未満の数値ラベルは非表示



**THANK
YOU**

